



▲デッドヒートが展開されました(6キロの部)

高原を駆ける！ クロスカントリー大会

7月29日(日)、「大山高原クロスカントリー大会」が大山・豪門山エリア内特設コースで行われました。

1周2キロ、高低差約40メートルのコースを距離別、年齢別の19部門に分かれて737人の選手が力走しました。第7回目となる同大会は、過去最高の参加者数となりました。2キロの小学生の部門には12人の小学1年生も挑戦。アップダウンの厳しいコースを最後まで懸命に走りきり、ひととき大きな声援を受けていました。

地域にふさわしい きれいな道を

このほど「ボランティア

ロード大山・名和女性団体連絡協議会」が設立されました。7月3日(火)、最初の活動として、山陰道大山IC周辺と国道9号大山パーキングの2か所で清掃活動が行われました。

小雨状態の中、約20人の参加者が汗を流し、1時間でトラック1台分のゴミを拾いま

した。

同連絡協議会は、大山IC周辺のゴミが目立つことから、「地域にふさわしいきれいな道づくりを応援しよう」という思いがきっかけとなって、設立されたそうです。

次回の活動では、大山IC周辺に花を植えることを考えておられるようです。



▶ポイ捨てのゴミが目立つ
大山IC周辺



▶大山パーキング

所子自治会で エキナセア収穫



▲刈り取り作業に汗を流す所子自治会のみなさん

7月8日(日)、所子自治会が薬用ハーブ『エキナセア』の刈り取りを行いました。所子自治会では昨年の夏に耕作放棄地対策として所子自治会転作推進委員会が中心となって約10アールの畑にエキナセアを定植しました。

所子には国の重要文化財門脇家住宅などがあり、町並みの景観保全に力を入れていきます。エキナセアはお茶に加工できるだけでなく、花も美しいので景観作物として導入されています。

現在、自治会でエキナセア栽培に取り組んでいるのは所

子のみ。この日は15人が参加して、鎌で丁寧な刈り取り作業を行いました。

所子自治会転作推進委員の大原広己(ひろみ)さんは「春の大風で、マルチがはがされてしまい、思ったより伸びなかったが、今後も栽培管理をして景観保全に努めていきたい。町の特産化にも期待したい」と意欲的でした。

今回刈り取られたエキナセア約1トンは、大山ハーブティー開発研究会(陣構)で、お茶などに加工されて販売されるということです。